



2025.12
Vol.

36

一般社団法人 二科会写真部 広報誌
NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS

REAL





第74回展の作品受付は 3月1日(日)ー10日(火)

2026 第74回二科会写真部展

【受付期間】 2026年3月1日(日)～3月10日(火)消印有効

【応募部門】 A. 単写真部門/B. 組写真部門/C. Young部門

【作品発表】 第110回記念二科展 国立新美術館
2026年9月2日(水)～9月14日(月)

3つの 注意点

1. A/B部門とC. Young部門の同時応募は不可
2. 画像生成AIによる作品は不可
3. ポリエステルベースの超光沢プリント(クリスタル)は不可
※名誉会員・会員・会友提出プリントも同様

二重応募・類似応募にご注意!

- 応募作品は「未発表作品」に限ります。結果が出るまでに同じ作品、類似する作品を他の公募展やコンテストに応募すると二重応募や類似応募となる可能性があるため応募を控えていただきますようお願いいたします。
- 他のコンテストなどで入賞・入選となった作品や公表の印刷物に掲載、WEBサイトに掲載されたものは「既発表作品」となりますので応募できません。
- 「既発表作品」「類似作品」と主催者が判断し、認めた場合は、入賞・入選を取り消します。
- グループ撮影会などにおける類似作品については、REAL32号をご参照ください。



REAL32号▶

6日(土)と7日(日)にはギヤラリートークを開催。授賞式後とあって地方から来た方も多く来場し、入賞作品に対する解説をじっくりと聞いて、今回の応募に活

9月5日(金)には、東京プリンスホテルで授賞式を行い、全国各地から432名が出席。入賞者ひとりひとりに賞状と副賞が手渡されました。その後、会場を移して開かれた懇親会では、全国各地の二科の仲間と一年に一度会える機会とあって、いろんなところで写真談議や記念撮影をする姿が見受けられ、あらためて「二科に入っていてよかった」という感想が聞かれました。

第73回二科会写真部展を東京・六本木にある国立新美術館で2025年、9月3日(水)～15日(月)まで開催しました。第109回の二科展としては、期間中に6万8809人の来場者があり、写真部展を含めて大いににぎわいました。また、1階のチャリテイー展示コーナーには絵画、デザイン、彫刻、写真の4部門の会員・会友のチャリテイー作品も並び好評でした。

なお名誉会員・会員・会友作品は提出が遅れた場合、「否出品扱い」となるので、いまから準備をお願いいたします。

また前回からポリエステルベースの超光沢プリントでの応募は不可となっています。面種でいうと「クリスタル」にあたるものです。これも3部門共通となりますので、お間違えのないようプリントを行ってください。

かそうとしているようでした。そして、2026年第74回二科会写真部展の応募が3月1日(日)～10日(火)に迫ってきました。今回も昨年同様、A単写真部門、B組写真部門、C Young部門での募集となります。大きな要項の変更はありませんが、細かい部分での注意点ががあるので、応募前にご確認ください。

群馬・福島・北海道で 支部設立50周年を迎える

二科会写真部は創立して73年を迎えますが、支部設立50年となったのが群馬、福島、北海道。群馬支部では祝賀会を12月20日（土）にホテルラシーネ新前橋で開催しました。

群馬支部は1975年9月24日に設立。当初は、飯塚誠氏が指導を受けていた『日本カメラ』の平賀真氏から秋山庄太郎創立会員を紹介してもらい、林忠彦創立会員・横山宗一郎氏を顧問に支部員73名でスタートしました。

1992年1月には水上温泉で全国大会を担当し、関東二科展、支部公募展も経験し発展し

てきました。2025年11月30日には「設立50周年記念誌」を刊行し、歴史を振り返っています。

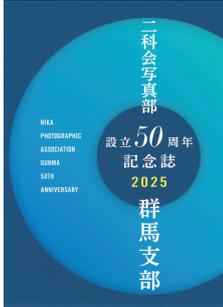
支部の創立メンバーは岩崎充男会員だけとなりましたが、2016年から支部長を務めた角田新八会員に話を聞くと、

「設立時、本展で写真を展示することを目標に研鑽を重ねてきました。記念誌に歴代の入賞者名を掲載していますが、毎年のように複数の入賞者を輩出したり、1985年には入選者数が43名いたこともあります。同時に富士フィルムフォトコンテストでも群馬の入賞者が席卷したことがあり、当時は本当に勢いがありました」と

と思い出を語りました。近年は会員・会友の退会が相次ぎ、支部員の数も減少気味ですが、角田行生支部長が、支部展と年2回の作品例会を実施し、支部の発展に尽くしています。

第50回支部展会場にて
(群馬県庁 昭和庁舎)

『二科会写真部 群馬支部
設立50周年記念誌』



会員・会友・支部員からのコメントだけでなく昔懐かしい写真が数多く掲載されています。

第49回東北地区公募展 秋田で開催



鈴木会員から表彰を受ける馬場さん。若い力に期待です！

青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島の6支部が持ち回りで開催している東北地区公募展が49回目を迎え、2019年以来、6年ぶりに秋田で行われ、1月21日（金）から24日（月）まで秋田総合生活文化会館「アトリオン」で入賞作品260点が展示されました。

東北二科賞には馬場信孝さんの「氷走」が選ばれ、その力強い作品に来場者も食い入るように見て、納得の様子。そのほかの入選作品もさすが6県から集まっているだけにレベルの高さを感じました。次回はいいよ50周年を迎え、担当は宮城県となります。半世紀の節目にふさわしい公募展なることが期待されます。

信越・北陸地区ブロック 合同モデル大撮影会



日本のベニスと例えられた富山「新湊内川界限」が撮影会場となりました。

11月15日（土）、信越・北陸地区（新潟・長野・福井・石川・富山）ブロック合同モデル大撮影会が開かれました。この企画は、地域によつては少なくなつたモデル撮影会を合同で開催したいという話からスタートし、富山県・新湊の内川界限を会場に行うことが決定。当日は、予想を上回る総勢77名が参加して大いに盛り上がりました。天候にも恵まれ、各地区の会員指導の下、4名の女性モデルを被写体に、港町の町家風景や運河を添景にして撮ることの楽しさ、作品ができる喜びを味わえました。今後このような試みが支部間の交流を生むと思われ、次回開催を望む声が多数聞かれました。

森井禎紹名誉会員が 2025年度 神戸市文化賞受賞



神戸市長からの表彰状を手に喜びの笑顔を見せる森井名誉会員。

兵庫支部の森井禎紹名誉会員が、神戸市の文化の発展に大きく貢献した個人や団体に贈られる賞、「神戸市文化賞」を受賞し、9月24日（水）神戸「THE SORAKUEN」にて表彰されました。アマチュア時代からコンテストで数々の賞を受賞、プロに転向してからは全国の祭り撮影をライフワークとし13冊もの写真集を刊行しています。森井名誉会員は「人生目的を失うと、生きがいも失う」と語る通り、84歳を迎えてもまだ意欲的に兵庫の絶景を追いかけシャッターを切り続けています。また、2024年から神戸芸術文化会議の副議長として神戸の文化振興を支えています。

創立25周年手ぬぐい 貴重な会員のサイン入り

小林茂雄会員から「創立25周年記念のグッズをご存じでしょうか」というメールが届きました。

写真を見ると、創立会員4名を中心に47名の会員のサインが入った圧巻の手ぬぐい。小林さんは、「半世紀近く前のものですが、全会員が写真部のさらなる発展を願い、一丸となって尽力を誓う決意を感じます。創立会員に牽引された時代が終焉し、求心力が弱まる難局を迎えましたが、新体制のもとであらたな船出を予感させます」と語っています。一枚の手ぬぐいから感じる思い、繋いでいきたいものです。



昭和52年(1977)に作られた手ぬぐい。懐かしいお名前が見られます。

和歌山支部の岡田治さんが 写真展&トークイベントを開催



トークイベントには約50名が参加し、二人の話に聞き入りました。

岡田治さんは、ネパールで小学校建設などの支援をしている前田八重さんを現地で撮影、「八重さんとネパールの小学校」と題した写真展を7月1日（火）〜13日（日）まで和歌山県国際交流センターで開催しました。6日（日）には二人によるトークイベントが開かれ、岡田さんは、現地に数回同行して運動会など小学校の様子を主に撮影したモノクロ作品約30点を展示。子どもたちの豊かな表情が写真から伝わってきます。写真を通じてネパール支援の輪を広げる取り組みとなりました。

米山悦朗会員写真展 2月15日まで開催中



展示作品から

これまで養蚕や全国の絹織物産地を継続して取材し、岡谷蚕糸博物館で発表してきた米山会員の企画展が同博物館で2月15日（日）まで開催中です。今回は、これまで発表してきた作品の総まとめとなるもので、米山会員が撮り続けてきた絹と人の営みが伝わる展示となっています。2月1日（日）13時からギャラリートークが開かれます。撮影秘話や米山会員の思いを知ることによって作品を見る目がより広く、深くなることでしょう。

神奈川支部の大賞は 森 洋司さんが受賞



授賞式の様子

今年で57回目となる二科会写真部神奈川支部公募展が、10月22日（水）から27日（月）までみなとみらいギャラリー「アクセス」で開かれ、10月25日（土）には審査員の林義勝さんによるギャラリートークも行われました。また同日、ロイヤルホールヨコハマで授賞式が開かれました。ブルーインパルスを望遠でとらえ、力強く表現した森洋司さんが大賞を受賞。「多くの方がカメラを向けた中で撮った一枚が選ばれて驚きでした」と壇上で喜びを語りました。

由宇芳上会友 「写真と絵付け」の二人展開催

東京支部に所属する由宇芳上会友は、恵子夫人と二人展を開催しますが、写真による二人展ではなく、写真と絵付けによる展示となります。由宇会友は、現在、2冊目の写真集を制作中ですが、「生きてきた証として二人とも元気な間にそれぞれが趣味としてやってきたことをまとめた」という思いがありました。家内を数年かけて説得し、やっと実現することになりました」と展示に至る経緯を語りました。

写真と絵付け(陶器)という異なる表現方法ですが、それぞれの世界観をひとつの空間に共存させました。現代は多様化の時代。独自の視点でデザインからアートの世界に向かって、前例のない組み合わせ



【二人展】
刻のはざまが
それぞれの視点
4月7日(火)〜12日(日)
銀座ITOYA地下1階
インスピレーションホール
写真集も同時刊行(日本写真企画刊)



せの展示は実に興味深い挑戦です。由宇会友は、京都芸大の通信制で若い人との交流を通して、大きな刺激を受け、2年で卒業。同窓会賞も受賞しています。そして展示作品は、「見えているようで観えていない都市風景」をテーマとしており、都市を立体的に撮影することでストーリー性を高めています。また恵子さんは、軽い気持ちで入った絵付けの教室にプロ級のメンバーがいて戸惑ったそうですが、自由な発想で描けることに魅力を感じて続けてきたそうです。写真と絵付けという異なる表現が響き合い、二人の人生と美意識のクロスロードです。アートディレクター三村漢氏の手による洗練されたアレンジも加わり、これまでにない展示となるでしょう。ぜひ、この唯一無二の世界観をご体感ください。

詩 風物 新ふるさとの

— 諏訪地方とシルク・蚕糸業のいま —



表彰式の様子

2021年に写真集を刊行し、第28回日本自費出版文化賞のグラフィック部門入選を果たした細川伸吉会員の表記写真展が1月8日(木)から19日(月)まで茅野市民館市民ギャラリーで開催されます。同賞は、多く流通する一般書籍と並び出版文化の重要な位置を占める自費出版の著者の功績を讃え、自費出版の再評価と活性化の促進を目的とするもの。

細川会員は、「応募はしましたが、入選できるとは思っていませんが、入選できるとは思ってもいなかった素直にうれしく、自分のやってきたことが評価されて良かったです。何歳になっても入選するとモチベーションが上がります」と喜びを語ってくれました。

期間中の11日(日)14時からギャラリートークも予定されています。

石原正道会員写真展 4月に東京・新宿で開催



これまでにアメリカを舞台とした写真集を2冊刊行している石原正道会員ですが、4月16日(木)から27日(月)まで東京・新宿のOM SYSTEM GALLERYで「望郷—ゴールドラッシュの夢と欲望の果てに—」と題した写真展を開催します。

アメリカ、カリフォルニア州にあるゴーストタウンボディーをテーマに、ゴールドラッシュで栄えた往時の面影を荒涼とした風景に重ねて撮影した作品群です。

写真のテーマは無限にあります。が、石原会員のように歴史的背景を理解してから取材することで写真の内容は一気に深まります。必見の写真展です。

家族の写真などを撮ることが好きでしたが、本格的に始めたのは子どもの学校で保護者に対する写真講座があり、主人が一眼レフを持っていたので、私もやってみようと思ってカメラを買って講座に入ったことでした。



仲間がいたから写真を続けられた

二科の本展には初応募から3回目で入選したのですが、それ以後はなかなか入らず応募をやめました。そんな頃、東京支部に入会。レベルの高い作品を拝見したり、例会での講評を聞いて、こんな世界があるんだ、と知りました。以来、写真への向き合い方が変わり、何を撮りたいのか、何を表現したいのか、という作品づくりの基本から学ばせてもらいました。

ただ、褒められることはめったになく、時には挫けることもありましたが、子どもの学校の講座から一緒に仲間がいるので支えてもらいながらここまで長く写真を続けることができました。2025年、大きな賞をいただいたのもみなさんのお陰ですし、写真をやめなくてよかったと思っています。写真は歩くから身体にもいいし、仲間とも楽しめて本当にいまは幸せです。

山口清子
さん
(東京支部)



カメラのお陰で日常の視線が変わった

私は以前からカメラ好きで、新製品が出ると手に入れていたのですが、特にこれといって作品づくりをしていたわけではありませんでした。60歳で定年退職した時、何か趣味となるものを持ちたいと思い、それまでカメラにつき込んできたこともあったので写真をしっかりやってみようとクラブに入会しました。最初は、2〜3年やって上達しなければやめればいいやという気持ちでしたが、写真雑誌『フォトコン』が企画したイベントで、グループ内でいい成績を残せ、それから面白味が強く湧いてきたのです。

5年目くらいからは県展などに応募するようになり、周囲の仲間が応募していることもあって東北二科や二科の本展に応募、本展は今年で2年連続入選できました。カメラが好きで集めていた頃と違い、日常にあるものを光やアングルなどを意識したカメラの目で見ようになりました。また公募展に応募するようになって同じものを撮っていてもダメなのでいろいろな撮り方に挑戦するようになり、心をワクワクさせることができるのも嬉しいですね。

高瀬文敏
さん
(秋田支部)

楽しみ方!

写真ってやっぱり素晴らしい!



写真を始めたのは退職してからなのですが、現役時代はバレーボールをしていて、体力的にも何か別のことをやろうかと探していた時期でした。絵でも書こうかなと思っていましたが、先にやっていた友人から「写真をやってみないか」と誘われたのがきっかけです。



被写体を見つけて作品にする喜び

何を撮りたいというわけではなかったのですが、教室に入って学ぼうとしたら上級者ばかりで、私の写真とは何が違うのかな……と迷っていたところ、初心者対象の教室ができたのでそちらに入会し、基本から学びました。

コロナ禍で海外旅行や遠出ができなくなり、近くにある川で何でもない雑草などにカメラを向けるようになりました。そうしたらいろんな姿に気づくようになり、自分で被写体を探して撮ることの楽しさを知りました。

二科には教室の先生からそろそろ出してみよう、と言われ応募したらいきなり入選することができました。そこから3年連続入選、また落選……と繰り返していますが、自分が見つけたものを作品にするのが本当に楽しいです。

浅野順子
さん
(岐阜支部)



写真が人生の糧として支えになっている

60代を目前にしてカメラを手にした私は、新潟の海の魅力に取りつかれ、年間200日以上も撮影に出かけました。逆光の夕陽はとてまっかこよく、人物を絡めるとドラマチックな写真になるからです。そんな写真をおる方に見てもらったところ、「全部だめ」と言われ(苦笑)、新潟支部への入会を勧められました。

本展に応募するようになって、なかなか入選できず、4年目くらいでようやく嬉しい知らせが届きました。新潟支部は若い人が増えて活気がありますが、「仕事は生きていくためのもの。趣味は人生の糧」と伝えています。私自身、写真のおかげで人とのつながりが広がり、さまざまな場所に行くことができ、人生が楽しくなったからです。もし写真と出会っていなかったら、どんな日々を送っていたのか想像もつきません。写真との出会いに心から感謝しています。

二科の70年史を見ると、当時「支部員50名を目指す」とありましたが、現在では67人にまで増えました。この素晴らしい輪を、支部の若い人たちに繋いでいってほしいと願っています。

金子克己
さん
(新潟支部)

9年前、友人に誘われ、軽い気持ちで公民館の写真教室に通うことにしました。しかし、そこは、私が想像もしていなかった世界、二科展に繋がる入り口でした。素晴らしい先生と先輩方のお陰で、2024年、初応募で初入選、2025年も無事に入選をいただくことができました。



ほかの人の写真を見るとワクワクする

私は、誰かの写真展を見に行くことや、教室の皆さんの写真を見せていただくことが大好きです。そこで「ああ～こんな写真を私も撮りたい!」と思う作品に出会うと、とてもワクワクした気持ちになります。どうしたらあんなふうに撮れるのだろうか、レンズやF値、シャッタースピードを想像し、撮影時のシチュエーションに思いを巡らせます。撮影は、可能な場所ならどこへでも行きます。何でも撮ります。鳥取砂丘の風紋、コハクチョウの流し撮り、工場夜景や都市の建造物、ショーウィンドウや水たまりに映るリフレクション等々。もちろん、偶然の出会いもたくさんあります。被写体によっては、パソコンで多重露光にも挑戦しています。これから、もっともっとワクワクは続きます。

澤口典子
(鳥取支部)さん

楽しみながら撮ることが一番



父が写真好きで、私も小さい頃から写真が好きでした。当時は作品づくりなどは考えたこともありませんでしたが、旅行に行ったときにはたくさん写真を撮っていました。14～15年前に写真が上手になりたいという思いになり、写真の教室に入ることになりました。

それまでコンテストの世界というのはまったく知らなかったのですが、周囲の人が応募していることもあって、私も先生に相談して応募しました。最初は落選でしたが、翌年には賞をいただきました。二科の本展も一年目は落選でしたが、翌年から連続で入選、今年は初めて入賞できました。

私は楽しく撮りたい、というのを一番大切にされていて、その延長上にコンテストや公募展があると思っています。だから楽しく好きな写真を目指していきたいと思います。

その中で漠然とですが、イメージしているのは「おしゃれな写真」です。簡単には撮れませんか、楽しみながらいつか撮れたらと思いつつシャッターを切り続けています。

西田由美子
(兵庫支部)さん



全国の支部で元気に活躍する8名をピックアップ!

私の写真の

家内と国内外問わず旅行をしていて、小さなカメラで撮っていたのですが、きれいな景色をしっかりと撮りたいと思って一眼レフを買ったのが70歳のときでした。最初は風景とか夜景など撮りましたが、思うように撮れなかったので、市でやっている教室に入り、写真の基礎を学びました。



テーマを絞って撮ってみたい

その後、自分の写真はどんなものなのかというのがわからなかったので、写真サークルに入り、光や動きなどをとらえることで作品が変わってくるということを学びました。2つ所属したのですが、ひとつは同級生がやっているサークルでした。

もうひとつは、会員のみなさんが二科展に応募していたので、私も応募することになり、初応募で初入選。翌年は落選でしたが、その後3回連続で入選しています。東京の国立新美術館に見に行きましたが、1点1点見ていると勉強になります。数が多くて2日かかりました。

写真を撮始めたのが遅く、何でも撮りたい気持ちが強いのですが、これからはテーマを絞って撮ってみたいなども思っています。

坂井賢司
(熊本支部)さん

誰も撮らないものに目を向ける面白さ



元々風景が好きで、函館の夜景を見るというツアーに参加したことがありました。「写るんです」で輝く夜景を撮ろうとしたらバスガイドさんに「それでは撮れませんよ」と言われ、なんで?という疑問が湧きました。地元に戻って写真に詳しい人に聞いたら「三脚を立てて長時間露光しないと」と教えてもらい、自分でもやってみようと思ってきました。その後すぐに花火を撮って松山市のフォトコンテストに応募したらいきなり最優秀賞をいただき、「写真って簡単だな」と思ったんですが(苦笑)、やっぱり写真は奥深いものですよね。

自営業なのでなかなか時間がないのと、二番煎じは嫌い、という性格もあり、遠くの知られた風景を撮るよりも歩いていて気付いたモチーフを撮る心象風景が中心です。目先を変えてオリジナリティを出そうと思えば、身近なところにたくさん撮るものがあると思っています。

愛媛支部に所属していますが、まだ本展に応募したことはありません。歴史ある公募展ですが、私らしい写真で挑戦してみたいです。

門田晶
(愛媛支部)さん

公開審査情報

第53回静岡支部公募展の公開審査を以下の日程で開催します。審査は市川喜久雄名誉会員が行います。日頃、なかなか見ることのできない現場で審査の緊張感やどのように選ばれるかを見ることが出来る貴重な機会となります。

- ① 2月14日(土)
② 10:00から開始
③ 静岡駅ビル パルシェ7階D会議室

巡回展情報

第109回二科展巡回展

鹿児島展

- ① 1月11日(日)~18日(日) ※13日(火)は休館
② 9:00~18:00(最終日は16:00)
③ 鹿児島県歴史・美術センター黎明館 第1特別展示室

福岡展

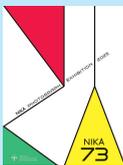
- ① 1月27日(火)~2月1日(日)
② 9:30~17:30
③ 福岡市美術館

『フォトコン』2月号に対談掲載



日本写真企画発行の写真雑誌『フォトコン』2月号(1月20日発売)で第74回展の応募へ向けた座談会が掲載されます。ぜひ応募前にお読みいただくと入選へのヒントが得られるはずです。

『第73回二科会写真部作品集』(2025年9月刊行)



全入賞作品と受賞者の言葉を収録した作品集です。名誉会員、会員、会友の作品も収録されているほか、第1回からの入賞者名簿も記録されている貴重な一冊。見ているだけで楽しめます。

定価 13,000円、支部員・入選者は特別価格 12,000円(税込・送料別)です。購入は事務局まで。



表紙「雪の日に今井寿雄

支部展

第33回岐阜支部展

- ① 1月6日(火)~12日(月)
② 10:00~18:00(最終日は16:00)
③ 岐阜県美術館一般展示室B

第47回富山支部公募展

- ① 1月10日(土)~12日(月)
② 9:00~17:00(最終日16:30)
③ 富山県民会館美術館

第36回山梨支部展

- ① 1月21日(水)~2月5日(木)
② 10:00~17:00(火曜休館)
③ 岡田紅陽写真美術館

第75回中部二科展

- ① 3月17日(火)~22日(日)
② 10:00~18:00(最終日16:00)
③ 愛知県美術館ギャラリー

第8回長崎支部展

- ① 5月1日(金)~5日(火)
② 10:00~18:00
③ 長崎コクラヤギャラリー

第14回大分支部展

- ① 5月12日(火)~17日(日)
② 10:00~17:00
③ 大分県アートプラザ 1階市民ギャラリーA

第35回茨城支部公募展

- ① 5月16日(土)~21日(木)
② 9:00~17:00
③ 水戸市ザ・ヒロサワ・シティ会館

第53回静岡支部公募展

- ① 6月9日(火)~14日(日)
② 10:00~17:00
③ 静岡県立美術館

第37回山梨支部展

- ① 6月9日(火)~14日(日)
② 9:00~17:00(最終日15:00まで)
③ 山梨県立美術館県民ギャラリーB

会員・会友の逝去者

- 若城章良 会員(愛知支部) 12月12日逝去
牛山金良 会友(長野支部) 逝去日非公開

今後の日程

2026年度会員会友定時総会 役員・支部長等連絡会議 懇親会

- ① 2月18日(水)
② 13:00~
③ 東京プリンスホテル

会員・会友推挙認定書授与式 第74回展 会員会友賞授賞式 第74回展 授賞式・懇親会

- ① 9月4日(金)
③ 東京プリンスホテル

第110回記念二科展 第74回二科会写真部展

- ① 9月2日(水)~14日(月)
② 10:00~18:00
③ 国立新美術館

写真展・個展

山本静恵写真展「片隅ものがたり」

- ① 2月21日(土)~4月20日(月)
② 9:00~17:00(火曜休館)
③ 南部町 祐生出合いの館

藤岡博司写真展「心象」

- ① 3月10日(火)~15日(日)
② 9:00~17:00
③ 広島県立美術館・県民ギャラリー

写真集



八柳吉彦『MESSAGE 世界を巡る LOVE & PEACE』

秋田支部の八柳吉彦名誉会員が「ジュニアに贈る フォトドキュメントIII」としてこれまで世界各国で撮影した写真をまとめました。秋田市内の中学生などに寄贈し、世界の人々と交流することの大切さ、世界へ目を向けることの意義を伝えています。子どもたちへの写真集の寄贈はこれで3冊目となります。八柳名誉会員は「小さな写真集ですが、私なりに写真でメッセージを込めたつもりです。多くの子どもたちに見てほしいです」と力強く語ってくれました。

